

取扱説明書及び部品表

 **Takakita**

グラントース
SS5020



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**グランドエース**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

- | | |
|---|--|
|  危険 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
|  警告 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
|  注意 | その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。 |

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	11
各部の名称とはたらき	12
運転に必要な装着の取扱い	14
1. キースイッチ	14
2. エンジンスロットルレバー ・チョークレバー	14
3. 走行クラッチペダル ・駐車ブレーキペダル	14
4. ハンドル	15
5. 変速レバー	16
6. 作業クラッチレバー	16
7. シャッター開閉レバー	16
8. シャッター開度ストッパー	17
9. アワーメーター	17
作 業 方 法	18
1. 作業手順と要点	18
2. 肥料・土改剤の投入	19
3. 散布量の調整	19
4. 散布作業の方法について	20
5. 散布幅について	21
6. 傾斜地での作業	21
7. ケイ糞の散布について	21
8. ホッパーカバー	21
9. 移動するとき	21
10. トラックへの積込み・積降ろし	21
11. トラックおよびトレーラでの運搬	22
12. 走行時の注意	22
作業前の点検について	23
1. 点検一覧表	23
簡単な手入れと処置	24
1. エンジンの点検・調整	24
2. エンジンのエアクリーナ（重要）	24
3. エンジンオイルの交換	24
4. オイルフィルタの交換	25
5. 点火プラグの清掃と調整	25
6. バッテリーについて	25
7. 走行ミッションのオイル点検	26
8. HST用のオイル	27
9. HSTオイル用フィタ	27
10. 散布ミッションオイルの点検	27
11. 各部のグリスアップ	28
12. クローラ張力の調整	28
13. ハンドルの調整	28
14. 走行クラッチペダルの調整	28
15. 駐車ブレーキペダルの調整	29
16. 作業クラッチの調整	29
17. 各部のベルトの張り調整	29
18. 散布方向の調整	30
19. 肥料・土改材について	30
20. 日常の管理について	30
21. 長期格納時の手入れ	31
22. 使用済廃棄物の処分について	31
不 調 診 断	32
付 表	34
1. 主要諸元	34
2. 配線図	35
3. 主な消耗部品	35
4. 定期点検と調整一覧表	36
5. 使用オイル一覧表	36

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

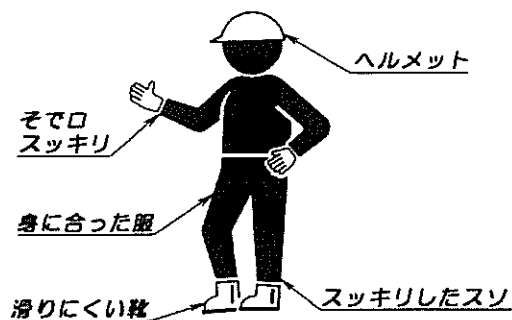
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

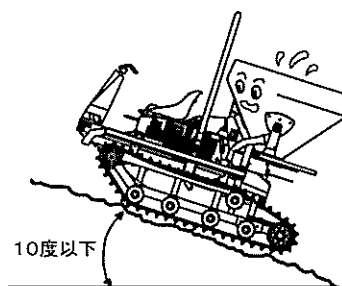
機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。

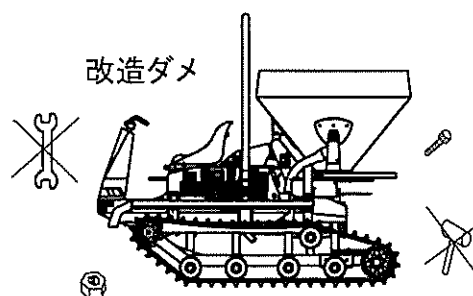
積載量は平地で600kg、傾斜地作業は最大傾斜10度までとし、そのときの積載量は480kgです。



(4) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けしないでください。

また、改造をしないでください。



(5) 使用目的以外への使用禁止

本機は、農業用肥料を散布することを目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

⚠ 安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



(7) 運転者以外に人を乗せない

本機の乗車定員は1名です。運転者以外、人を乗せないでください。

2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

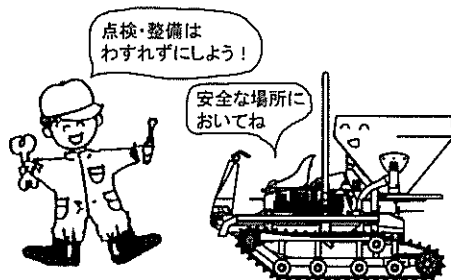


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、エンジンを止め、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

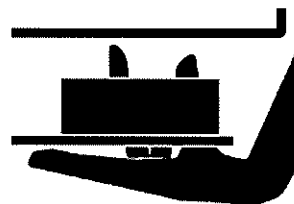


(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

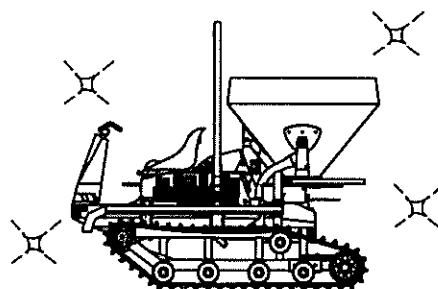
(5) 慣性回転に注意

クラッチを切ってもスピナーは慣性力でしばらく回転しています。完全に停止するまで触れないでください。



(6) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取り除き、機械を常にきれいにしてください。



- エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、おもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



⚠ 安全に作業するために

(7) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

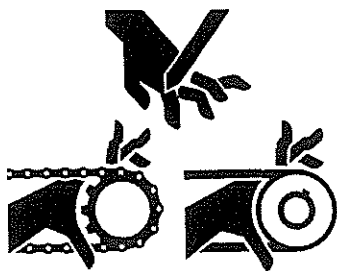
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(8) カバー類を必ず取付ける

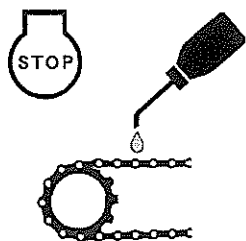
カバー類などの防護装置を取外す場合は、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



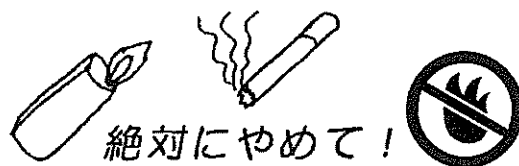
(9) 注油・給油をするときは

エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。



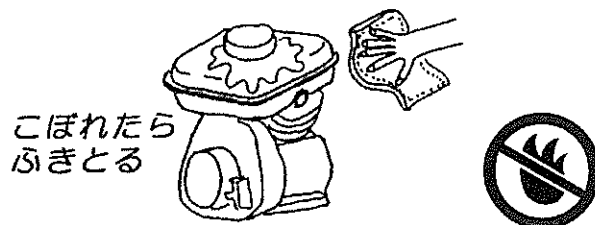
(10) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火照明は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



(11) こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(12) マフラ・エンジンのゴミは取り除く

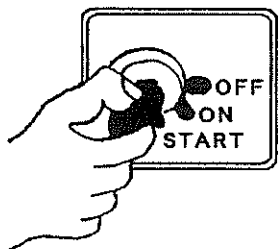
マフラやエンジン周辺に、ワラクズ・ゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(13) キースイッチの動作確認を

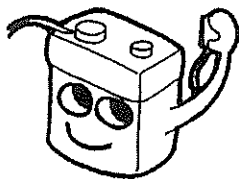
配線コードの外れなどがないかを点検し、キースイッチをOFFの位置に戻してエンジンが停止するかを必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



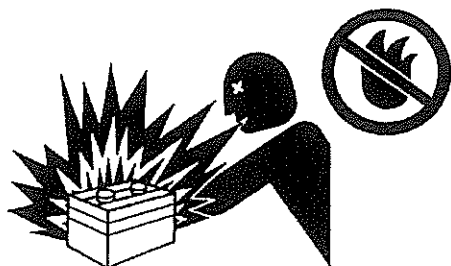
(14) 電気部品を修理するときは

- ①電気部品やその周辺の修理を行うときには、必ずバッテリーの(－)側を外してから実施してください。

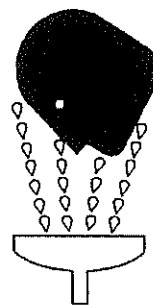
(－) をはずしてから
点検・修理をしよう！



- ②バッテリーは、充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発の恐れがあります。充電中はタバコを吸ったり、火を近づけたりしないでください。

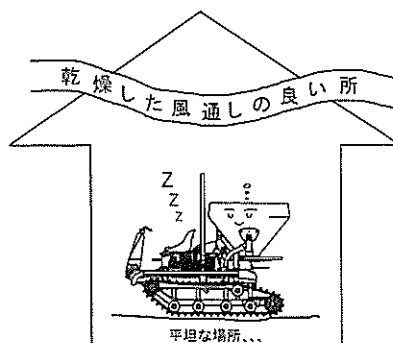


- ③バッテリー液は希硫酸なので扱いには注意し、体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合は、すぐ水で洗ってすみやかに医師の診療を受けてください。



(15) 長期格納するときは

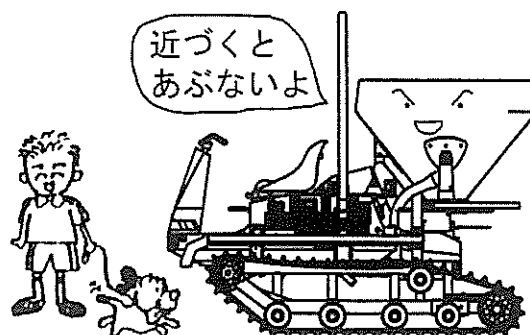
機械を清掃し、回転部には十分注油し、バッテリーを取り外し、キーを抜き取り、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

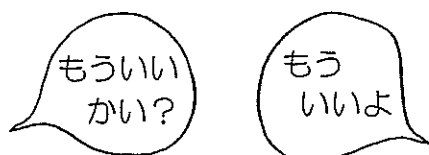
特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



⚠ 安全に作業するために

(2) 二人以上で作業するときは

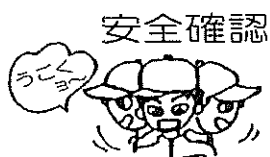
二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときは

作業クラッチおよび走行クラッチを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(4) 散布作業するときは

散布作業中は後方および側方に肥料が10m前後に飛散します。後方に人がいないことや障害物のないことを十分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



(5) 散布作業する場合

肥料が飛散し、目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用して作業してください。



(6) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードを出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

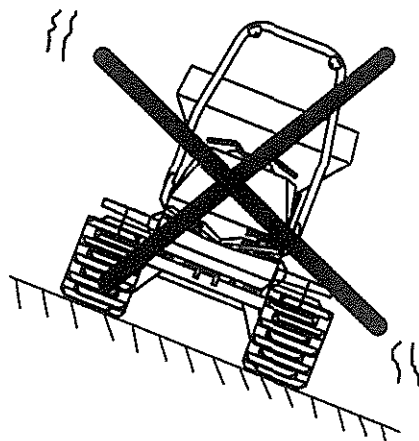
(7) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

①斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず直角方向に走行してください。

②チェンジ操作は行わず、変速位置をあらかじめ低速にして速度を下げ、特に下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。



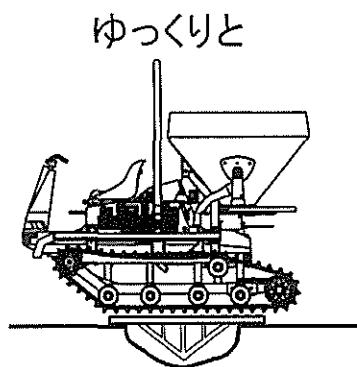
▲ 安全に作業するために

(8) 移動及び作業の旋回の際は

旋回時に片方のクローラをあぜに乗り上げたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあり危険です。

(9) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

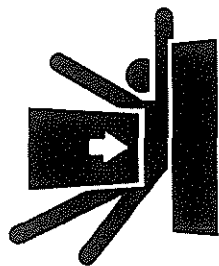
スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(10) 作業途中で運転席より離れるときは
平坦な場所に停車し、エンジンを止め
走行クラッチを切り、駐車ブレーキを
掛けてください。

(11) 後進して作業するときは

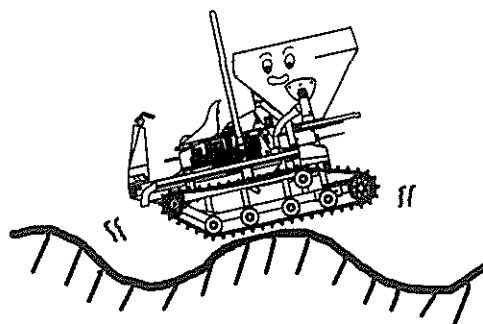
後方に障害物がないことを十分確認し
本機と障害物の間に人や動物をは挟ま
ないようにしてください。



(12) あぜの乗り越えは

畦畔を越えるときは、機体が上向きから下向きに急に変わるので十分に注意し、最低速度で畦畔に直角に越えるようにしてください。あぜがコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使ってください。

凸部は注意して！！



(13) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために、作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医者診療を受けてください。

高温のときは
やめて！！



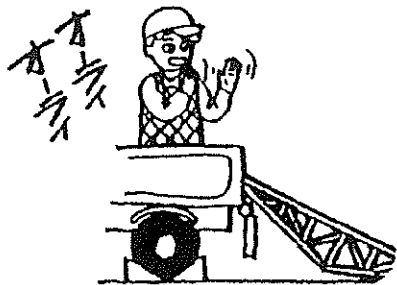
⚠ 安全に作業するために

4. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

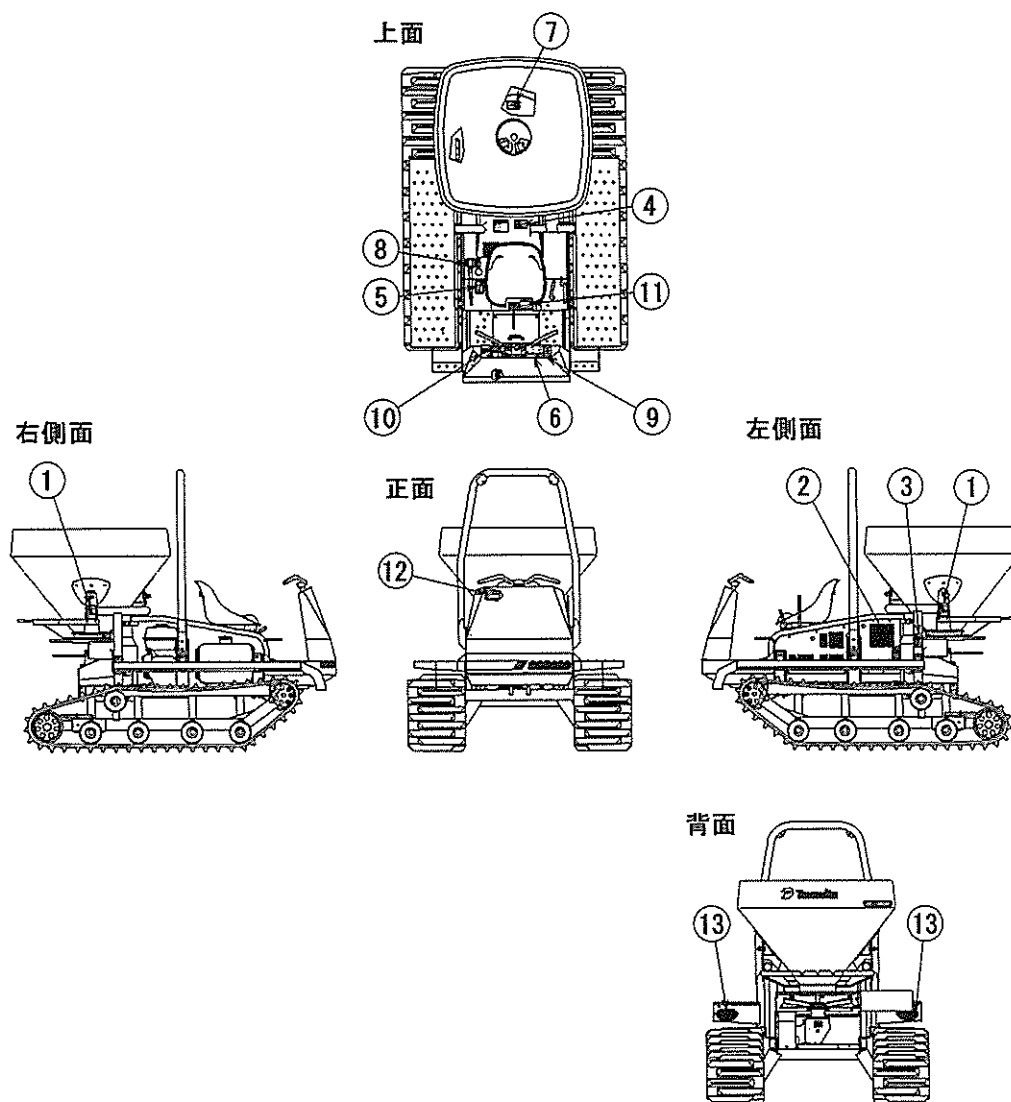
- (2) トラックなどへの積み込み・積降ろしは平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに行ってください。積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001206001020

②部品コード 001206000420

③部品コード 001206000400

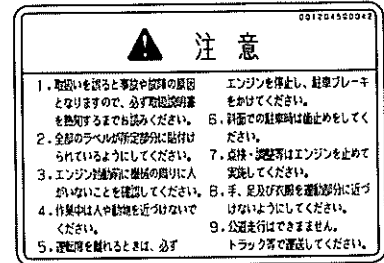
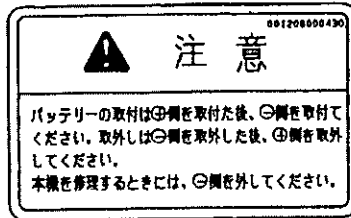


⚠ 安全に作業するために

④部品コード 001206000800

⑤部品コード 001206000430

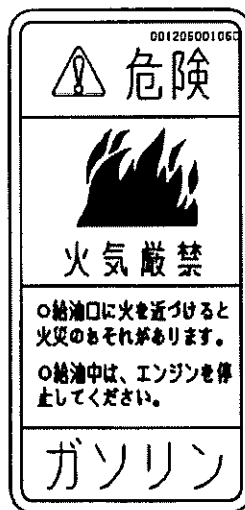
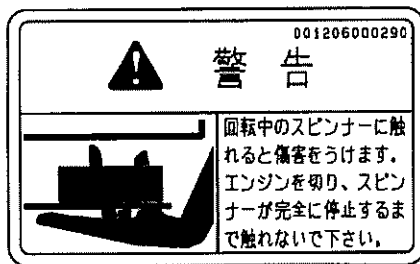
⑥部品コード 001204500042



⑦部品コード 001206000290

⑧部品コード 001206001060

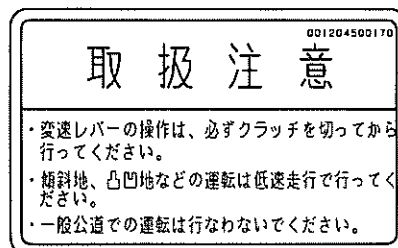
⑨部品コード 001206000440



⑩部品コード 001306000210

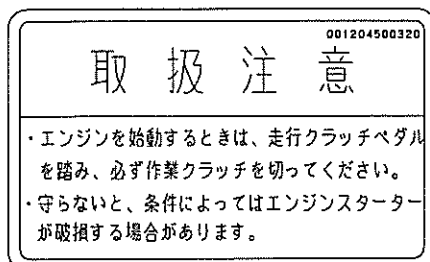


⑪部品コード 001204500170



⑫部品コード 001204500320

⑬部品コード 001206001010



安全に作業するために

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、肥料や土改剤の散布作業にご使用ください。

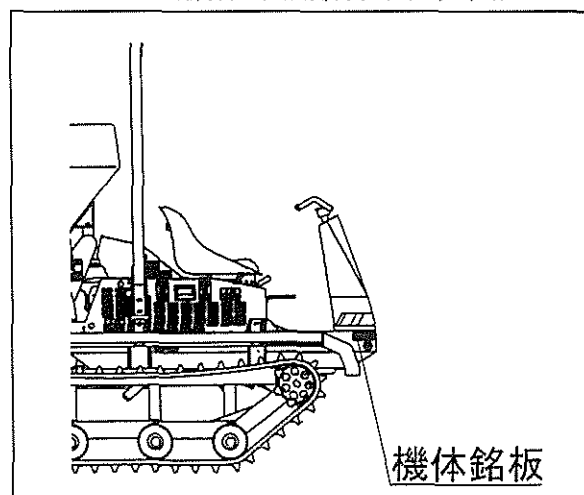
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

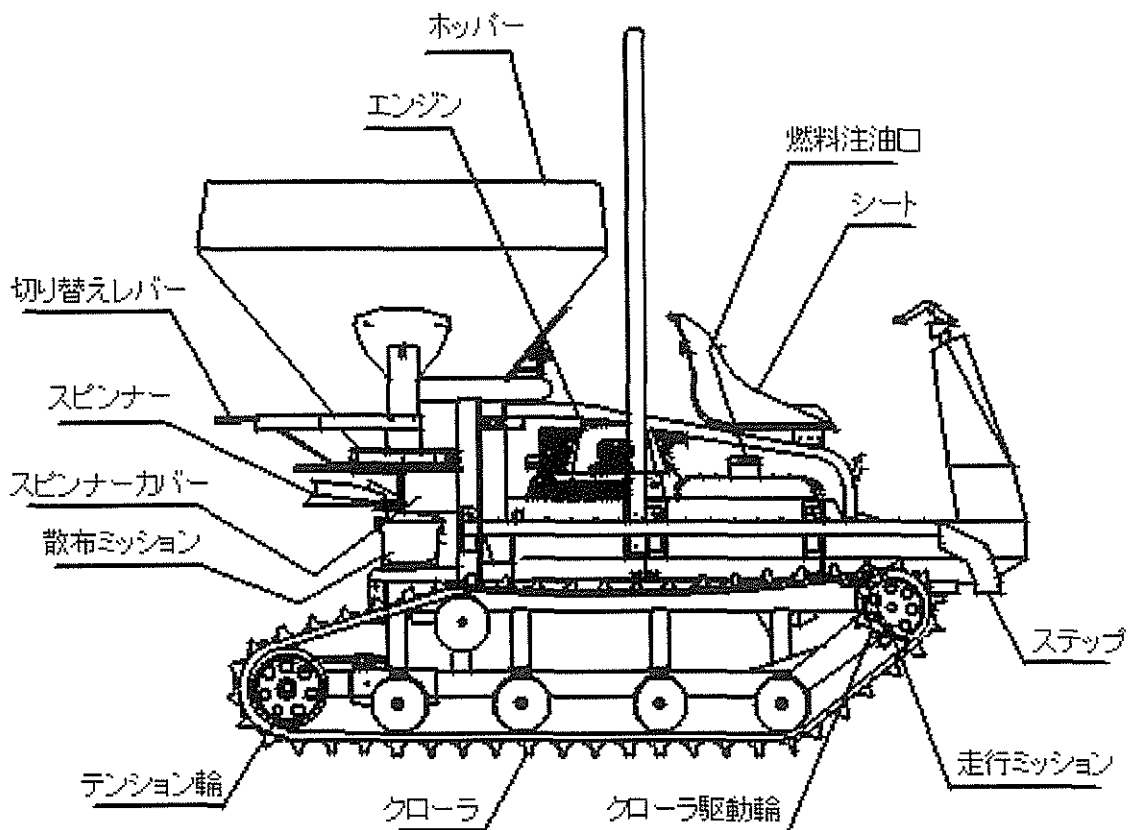
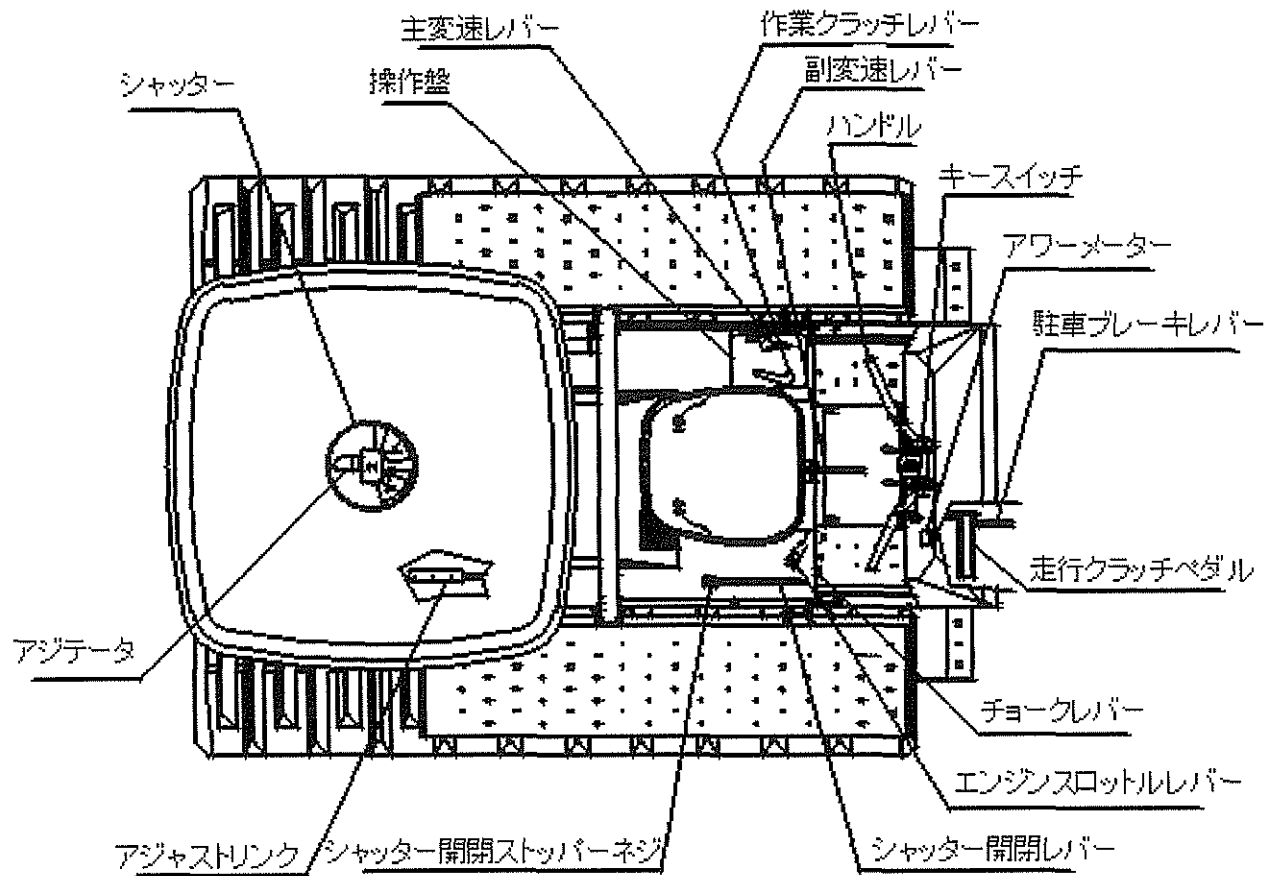
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	グランドエース
型 式	S S 5 0 2 0
機体No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



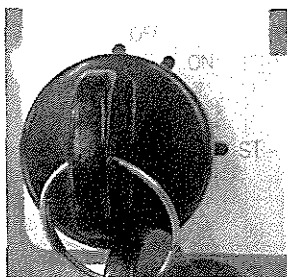
各部の名称とはたらき

	称	はたらき	参照 ページ
機能構成部	ホッパー	肥料を投入するジョウゴ形の器。	—
	アジテータ	肥料を散布口まで繰り出す作用をします。	21
	シャッター	肥料の繰り出し量を調整する部分。	—
	スピナーカバー	肥料の散布方向を規制するカバー。	—
	切り替えレバー アジャストリンク	肥料の性状が変わっても一定の散布方向が得られるよう繰り出し穴の位置を変えます。	30
	ステップ	肥料を手で投入する時に乗ります。	—
	シート	作業者の座席。	17
	アワーメーター	運転の積算時間を示します。	17
動力伝達構成部	スピナー	肥料を遠心力により散布する回転羽根。	—
	操作盤	各操作レバーやスイッチを集中操作する部分。	—
	エンジン	動力源、燃料はレギュラーガソリンを使用します。	24
	走行ミッション	走行部のクローラへの動力伝達をするミッション。	26
	散布ミッション	エンジン動力をスピナー部へ伝達します。	27
	主変速レバー	走行速度を切換えるレバー。	16
	副変速レバー		
	クローラ駆動輪	クローラを駆動させる側の駆動輪。	—
	クローラ	ゴム製の走行履帯。	28
	テンション輪	クローラの張り具合を調整し、車体荷重を支えます。	—
操作関係部	燃料注入口	エンジンの燃料タンクの注入口。	—
	キースイッチ	START位置でエンジンが始動します。OFF位置でエンジンが停止します。	14
	エンジンスロットル レバー	エンジン回転速度を調整するレバー。	14
	チョークレバー	エンジンを始動するとき「閉」位置にします。	14
	走行クラッチペダル	ペダルを踏むと走行動力が切れ、ブレーキがかかります。	14
	ハンドル	左右に旋回するときに旋回する方にハンドルをまわします。	15
	作業クラッチレバー	散布部への動力伝達の「入・切」を操作します。	16
	シャッター開閉レバー	シャッターを開閉するレバー。	16
	シャッター開度 ストッパーネジ	シャッター開閉ハンドルの開度位置を固定するネジ。	17
	駐車ブレーキレバー	駐車時にブレーキペダルを固定する金具。	14

運転に必要な装置の取扱い

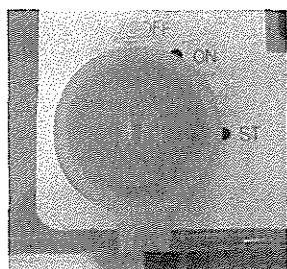
1. キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。始動する時はチョークレバーを引き、スロットルレバーを少し高速側にし、キースイッチを ST (スタート) 位置まで回してください。エンジンのセルモーターが回転し、エンジンが始動します。停止する時はキースイッチを OFF (停止) 位置まで戻してください。



注意

- ① 1 回で始動せず再始動する場合は、エンジンのフライホイールが止まっていることを確認の上、キースイッチを回してください。
- ② セルモーターは 15 秒以上連続して回さないでください。
- ③ エンジンが始動したら、しばらく低速で暖機運転してください。
- ④ 本機は安全のため、クラッチペダルを踏まないとエンジンスタータが回りません。始動する時は、クラッチペダルを踏み、またエンジンスターターへの負荷軽減のため、作業クラッチを切ってからキースイッチを回してください。
- ⑤ 本機を使用しない時は、キースイッチを抜き、雨などが入らないようにキャップをしてください。



- ・ エンジンが温まった状態でエンジンを始動させる場合は、スロットルを中程度まで上げた状態で始動させてください。

2. エンジンスロットルレバー・チョークレバー

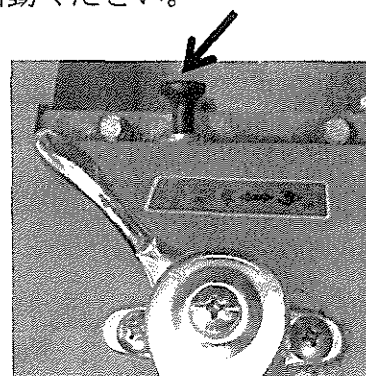
◆エンジンスロットルレバー

エンジンの回転速度を調整するレバーです。下図の右側へ回す程、エンジンの回転速度が高くなります。

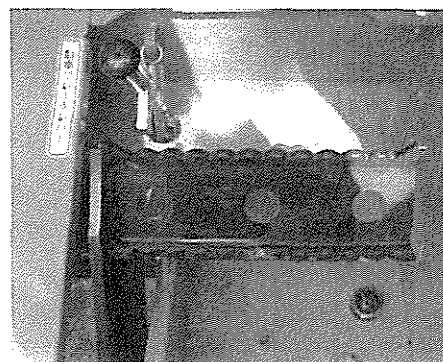


◆チョークレバー

エンジンが冷えている時に始動する場合は、チョークレバーを下図の上の方に引き始動ください。



3. 走行クラッチペダル・駐車ブレーキレバー



運転に必要な装置の取扱い

◆走行クラッチペダル

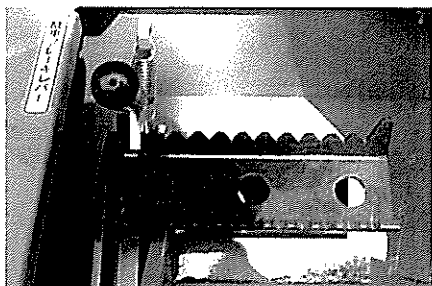
走行クラッチペダルを踏むと、走行クラッチが切れ、本機の走行が停止します。発進時は危険防止のため、ゆっくりとペダルを戻してください。

注意

- ①エンジンがアイドリング状態で走行クラッチペダルを戻すと、エンジンがストップする場合があります。エンジンの回転速度をある程度上げてから走行クラッチペダルを戻してください。
- ②本機は安全のため、走行クラッチペダルをふまないとエンジンスタートが回りません。エンジンをスタートする時は必ず走行クラッチペダルを踏んでください。

◆駐車ブレーキレバー

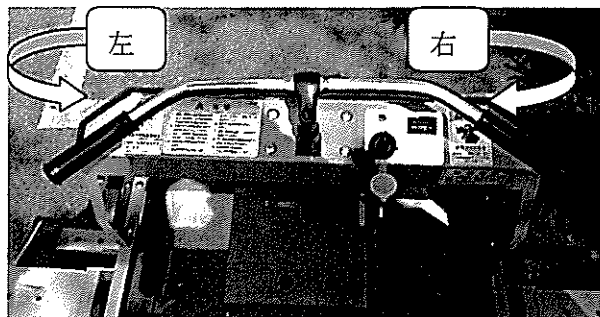
駐車は平坦な場所に停車し、走行クラッチペダルを踏み、フックをかけて走行クラッチペダルを固定してください。



注意

本機から離れる時には、必ず駐車ブレーキをかけておいてください。
走行中は駐車ブレーキを解除してください。

4. ハンドル



右に旋回するときは、ハンドルの右側を手

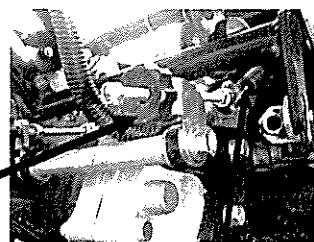
前に引き、左に旋回するときは、ハンドルの左側を手前に引いてください。

機体を旋回させる時は速度を落とし、数回にわけてゆっくりと旋回してください。

◆ハンドル戻り補助バネ

走行地面が非常に軟弱な場合、走行ミッションへの負荷が大きくなり、旋回時にハンドルの戻りが悪くなったり、左右旋回の駆動が不安定になることがあります。

このような場合は、走行ミッションの前面にある左右のハンドル戻り補助バネをノブナットで締込み、バネが伸び始める直前まで張ってください。ハンドルを操作すると、バネにより、戻り力が補助されます。



ノブナット

ハンドル戻り補助バネ

注意

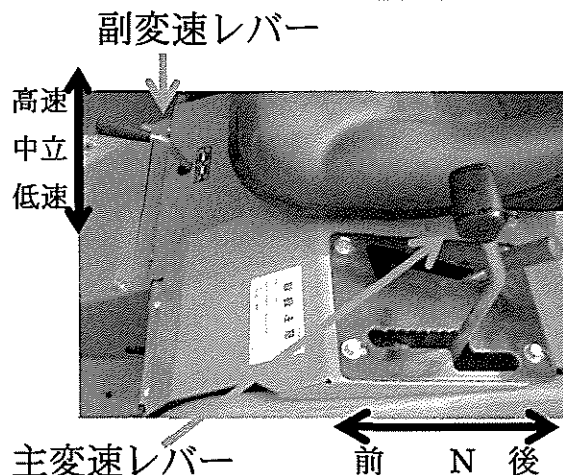
補助バネは、締めすぎるとハンドル操作力が大きくなるので、注意してください。通常は、補助バネが伸ばされない位置までノブナットを緩めて使用してください。

！ 警告

- 高速走行時、ハンドルを強く引くと急旋回して危険ですので注意してください。
- 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみ込む恐れがあるのでさけてください。
- 旋回時に片方のクローラをあぜに乗りあげたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。守らないと、転倒したり、クローラが外れたりする恐れがあり危険です。

運転に必要な装置の取扱い

5. 変速レバー



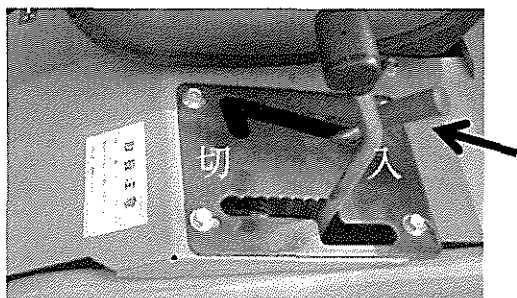
本機の走行速度を選択するレバーです。
 ≪車速域の目安≫ (km/h)

副変速	主変速	車速
低速	前進	0 ~ 3.8
	後進	0 ~ 2.1
高速	前進	0 ~ 7.0
	後進	0 ~ 4.0

注意

変速レバーの切換えは走行ミッションを傷めないよう、必ず走行クラッチペダルを踏み、機体が完全に停止した状態で行ってください。

6. 作業クラッチレバー



作業クラッチレバーを上図の「入」の方向にすると、作業クラッチがつながり、散布部のスピナー及びアジテータが回転します。

警告

- 作業クラッチレバーを「入」にするときは、まわりに人がいないことを確認のうえ、ゆっくりとつないでください。
- エンジン始動時は、突然スピナーが動きださないよう、作業クラッチは必ず「切」にしてください。

注意

作業クラッチを切らないでエンジンを始動すると、条件によってはエンジンスタータが破損する場合があります。

7. シャッター開閉レバー



- 散布シャッターの開閉及び散布量の調整をこのレバーで行います。
- シャッター開閉ハンドルを上図の左側に引く程、シャッター開度が大きくなり、散布量が多くなります。

注意

散布シャッターを閉じた状態で長時間スピナーを回転させていると、ホッパー内の肥料が固まり、ブリッジ現象による肥料の繰り出し不良や、不均一散布の原因となります。また、本機損傷の原因となります。シャッターを閉じた状態でのスピナーの回転はしないでください。

運転に必要な装置の取扱い

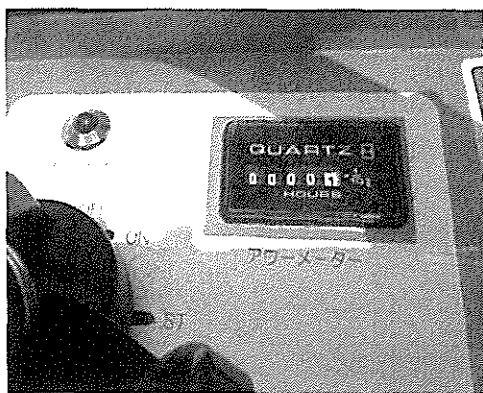
8. シャッター開度ストッパー



反当りの散布量と車速からシャッター開度が決まりましたら、その設定位置にストッパーを固定してください。

※散布量の設定については、19～20ページを参照してください。

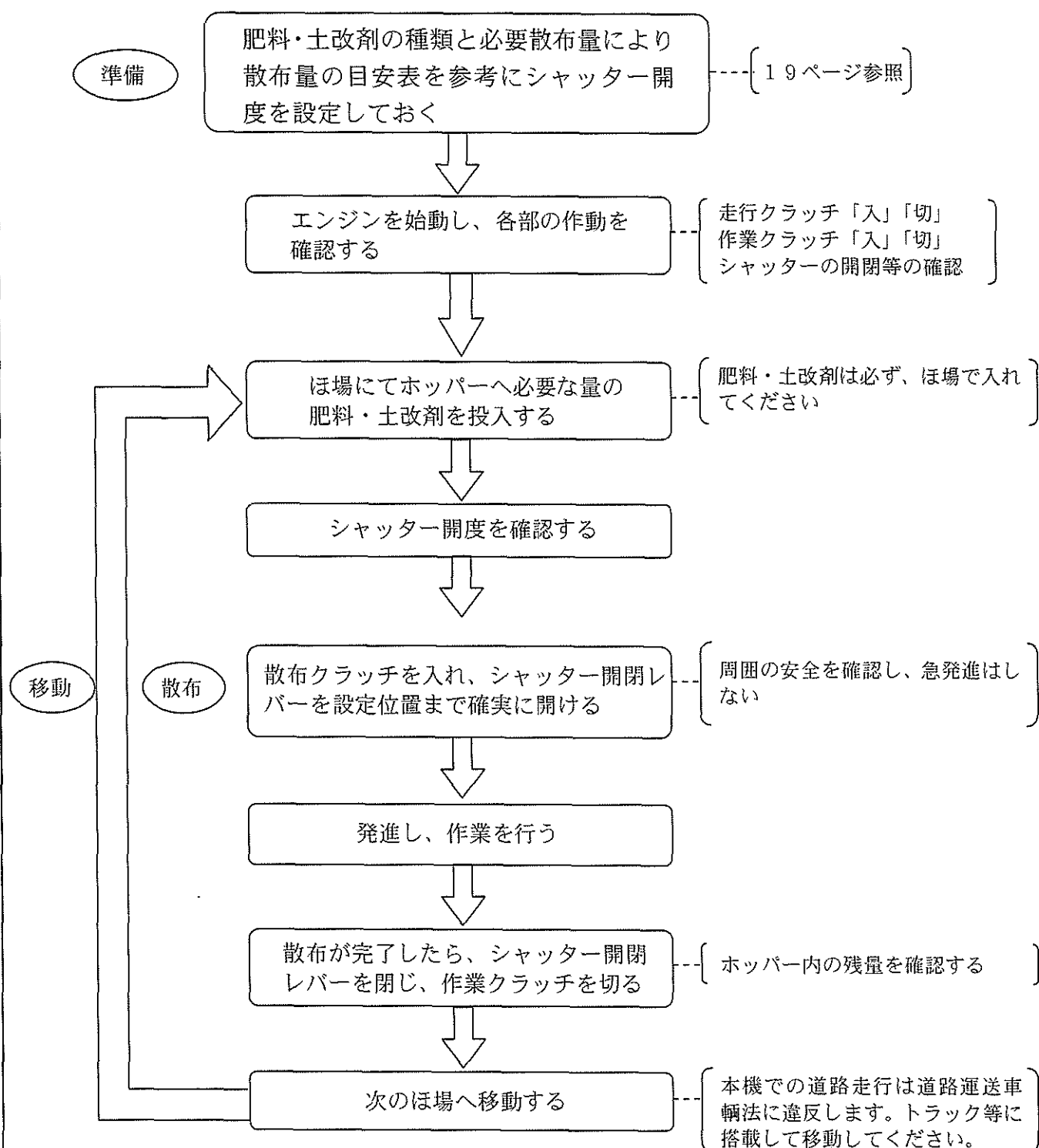
9. アワーメーター



運転の積算時間を示します。点検、整備の目安時間に利用してください。

作業方法

1. 作業手順と要点



作業方法

2. 肥料・土改剤の投入

警告

本機の積載量は500ℓ（最大600kg）です。規定以上の積込みを行うと機械が破損するだけでなく、安全な走行作業が行えません。十分注意してください。

- ①本機を水平な場所に移動し、エンジンを停止して駐車ブレーキをかけてから肥料・土改剤を投入してください。
- ②肥料・土改剤は散布に必要な適正量のみホッパーに入れてください。不要な量の肥料・土改剤は後作業にムダを発生させます。

注意

土改剤は必ず、散布ほ場へトラック等であらかじめ運んでおいてから散布の直前にホッパーへ入れるようにしてください。ホッパー内に肥料・土改剤を入れたまま運搬すると、運送中に肥料・土改剤がホッパー内で圧縮されるため、ブリッジ現象による繰り出し不良や散布ムラの原因となります。

3. 散布量の調整

散布量の調整は、シャッター開閉レバーの開度位置により行います。シャッター開閉レバーの目盛は0から10までありますが、1の位置から徐々に開きはじめ、10の位置で全開となります。

散 布 量 の 目 安				
	粒状肥料の10a当りの散布量 (kg) の目安		砂状肥料の10a当りの散布量 (kg) の目安	
	有効散布幅 10m基準時		有効散布幅 6m基準時	
	低速	高速	低速	高速
	(3.8 km/h)	(7.2 km/h)	(3.8 km/h)	(7.2 km/h)
1	—	—	—	—
2	—	—	—	—
3	—	—	4	—
4	—	—	5	11
5	7	5	11	22
6	23	14	47	25
7	46	29	164	86
8	64	40	284	149
9	89	56	369	193
10	107	68	467	245
	比重 0.9		比重 1.3	

作業方法

◆シャッター開度位置の選定

散布量の設定は前ページの表を参考にシャッター開閉レバーの開度位置を設定してください。

《例》

10アール当り砂状土改剤を150kg散布したい場合、表中の150kgに近い数値を探すと次の2案があります。

	副変速	開度	散布量
案1	低速	7	164kg
案2	高速	8	149kg

以上の内から、ほ場条件・作業条件に適した組合せを選定してください。

注意

目安表の数値は一般に参考値としてお考えください。実際には肥料・土改剤の種類、散布条件、ほ場条件により差異が生じる場合があります。

最初に使用されるときは、目標散布量の半分に設定して、2度播きされることをおすすめします。

◆シャッター開度ストッパーの固定

シャッター開度を選定されましたら、シャッター開度ストッパーを選定位置にネジで固定してください。



4. 散布作業の方法について

◆作業手順について

- ①散布クラッチを入れ、シャッター開度レバーを設定開度位置まで確実に開けてください。

- ②肥料・土改剤が本機後方に散布されるのが確認できたら、走行クラッチを入れ、走行を開始してください。

注意

本機による後方への散布距離は、最大約8～10m、左右への最大散布幅は10～14mあり、散布する肥料・土改剤により異なりますが、作業開始位置と旋回位置は、この距離を考慮して作業してください。

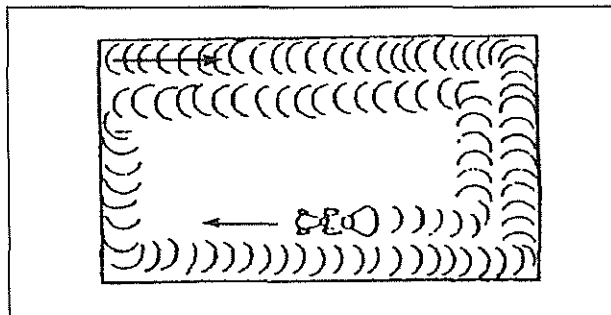
危険

走行開始時には、ホッパー内に土改剤が満載されているため、重量のバランスをくずしやすい危険な状態にあります。急発進はやめてください。

注意

より均一な散布を行うためには、散布作業中の走行速度を一定に保つようにしてください。

- ③ほ場での走行は、下図のように旋回しながら散布すると均一な散布ができます。



注意

ほ場が広い場合は、作業前にホッパー容量と散布量を考慮の上、あらかじめ、ほ場の各所に肥料・土改剤袋を置いておくのと能率のよい作業が行えます。

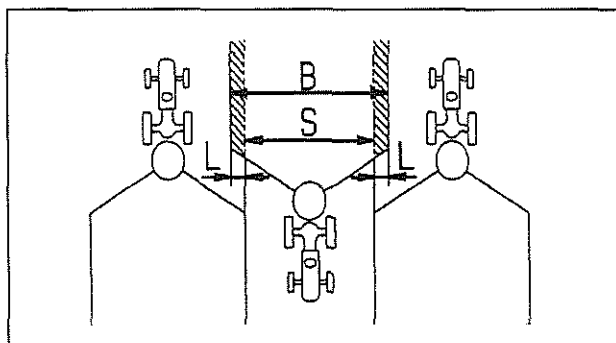
危険

散布作業に入る前には、後方に人や動物がいないことを確認してください。

作業方法

5. 散布幅について

- 散布幅は肥料・土改剤の大きさ、スピナーの回転速度、風などに影響されます。一般的には、大きい粒子の肥料・土改剤の場合はスピナー回転速度が速いほど、散布幅が広がります。
- 肥料・土改剤の種類によっても散布幅が変わります。その種類や特性により散布幅に適切な重複が必要です。



	粒状	砂状
S:有効散布幅	10～12m	6～7m
L:重複幅	1～2m	1～2m
B:最大散布幅	12～14m	8～9m

6. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行、急ハンドル禁止

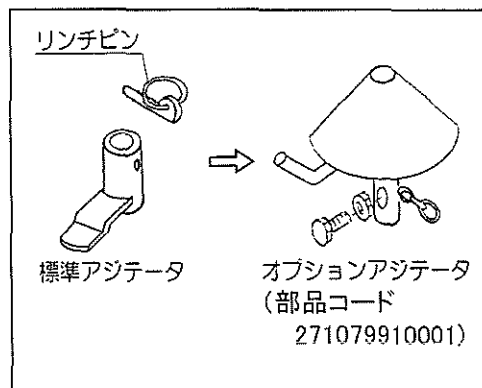
斜面に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落とし、急旋回をしないでください。

⚠ 警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

7. ケイ糞の散布について

ケイ糞を散布する場合は、ホッパー内でブリッジ現象が発生するため、アジテータの交換が必要です。下図のようにオプションアジテータ（別売品）に交換してください。オプションアジテータへの交換は、ホッパーを外してから行ってください。



注意

水分の多いケイ糞の場合は、オプションアジテータを用いてもブリッジ現象が発生する場合があります。本機での散布は乾燥したケイ糞を使用してください。

8. ホッパーカバー

ホッパーカバーは別売品（オプション）として準備いたしておりますので、販売店にご注文ください。

(部品コード 27107 4120 000)

9. 移動するときは

本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラック等で運搬してください。

10. トラックへの積み込み・積降ろし

トラックへの積み込み・積降ろしは、次の要領で行ってください。

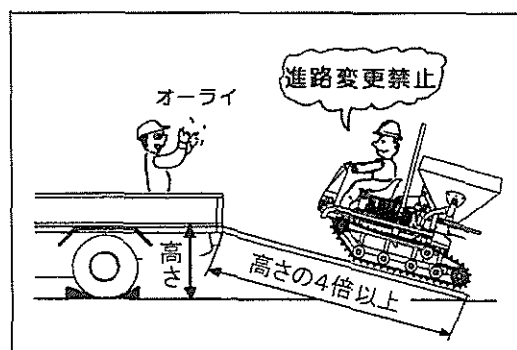
おもわぬ事故につながる恐れがありますので積み込み、積降ろしとも十分注意してください。

作業方法

警告

- 積込み・積降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実にかけてください。
- 周囲は機械が不意に動いたときに危険ですので立たないでください。
- サイドクラッチを操作してアユミ板の上で進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて転倒する恐れがあります。
- アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので十分に注意してください。
特に、スピードの速い時には転倒の恐れがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

- ①トラックおよびトレーラへの積込み・積降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立合いのもとで行ってください。
- ②積込み・積降ろしに使用するアユミ板は滑り止めの加工のある1本で500kg以上の荷重に耐えられるものでトラック荷台高さの4倍以上の長さのものをご使用ください。
- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実にかけて外れないことを確認してから、本機の積降ろしを行ってください。
- ④積込み時の車速は最低速度で安全運転をしながら行ってください。
- ⑤トラックおよびトレーラへの積込みは必ず、前進走行で行ってください。



11. トラックおよびトレーラでの運搬

警告

丈夫なロープを本機にかけ、確実に固定し、本機の駐車ブレーキをかけてください。
守らないと、急ブレーキをかけた時などに荷台から本機が転落する恐れがあります。

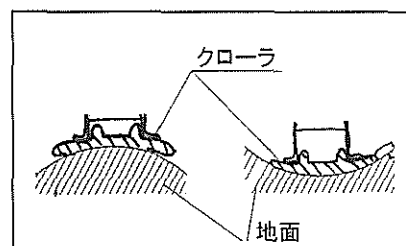
本機を運搬する時は積載量1.0t以上で十分な広さを有するトラックまたはトレーラを使用し、運転には坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

12. 走行時の注意

- ①下記の様な路面で走行すると、ゴムクローラの接地面側に傷が発生し易いので、なるべく避けてください。やむをえず走行する場合は、急旋回をやめ、ゆっくり走行してください。

・碎石を敷いた路面、石の多い路面、切り株の多い路面

- ②下図の様な断面形状の路面では、脱輪が発生しやすいので、ゴムクローラの状態に注意しながらゆっくりと走行してください。



作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをする恐れがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対に使用しないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。まもらないと火災の原因となります。

点検一覧表

項 目		内 容	参照ページ	チェック
本機を廻って	前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
	損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
	クローラの張り	適正な張力	28	
	エンジンオイル	オイル量ともれ	24	
	エンジンの燃料	エアクリーナの汚れ（重要）	(エンジンの取説)	
	エンジンのエアクリーナ	バッテリー液量の点検	24	
	バッテリー	バッテリー液量の点検	25	
	配線コード	コードの被覆のはがれ、接続部の緩み	—	
	各部への注油・グリスアップ	各部への給油参照	27	
エンジンを始動して	走行クラッチペダル	「入」「切」の作動確認、「あそび」の確認	28	
	作業クラッチレバー	「入」「切」の作動確認	29	
	ハンドル	スムーズな作動	28	
	キースイッチ	作動確認	14	
	エンジン音	異音がないか	—	

簡単な手入れと処置

1. エンジンの点検・調整

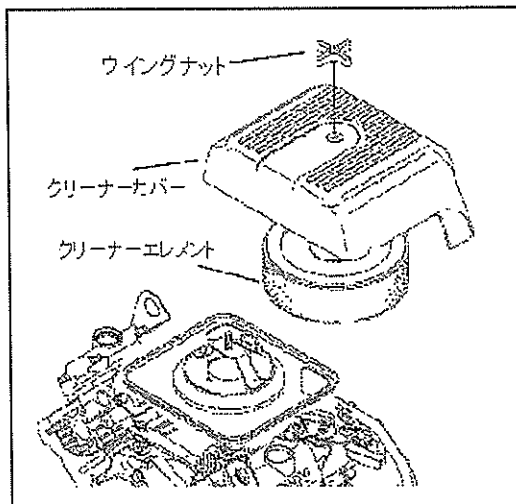
※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全を願います。

2. エンジンのエアクリーナ (重要)

本機はホコリの多い環境で使用されるため、エアクリーナの点検・清掃が大変重要となります。下記に従い、作業前には毎日点検・清掃を行ってください。

守らないと、エンジンが不調となるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり寿命が大きく低下する原因となります。

- ①乾式エレメントを使用していますので、オイルが付着しないように気をつけてください。
- ②普通の場所では毎日、スポンジのゴミを取除いてください。
汚れや水分がある時は、布などできれいにふき取ってください。
特に汚れがひどい場合は、予備に付属しているスポンジと交換してください。
- ③エレメントは、清掃以外不必要に触らないでください。
- ④エレメントの清掃は、エレメントに張り付けてある注意書を参照の上、定期点検表に従って清掃してください。
- ⑤エレメントは、1年毎または6回清掃後に交換を標準とし、汚れがひどい場合は早めに交換してください。



注意

エレメント締付用ウイングナットは、エレメントを正しく挿入して、確実に締付けてください。

締付けが不十分ですとゴミ等を吸込んでシリンダーライナやピストンリングの摩耗を早め、出力不足になります。

3. エンジンオイルの交換

●エンジンオイルの交換

交換：

初回は

1ヶ月または、20時間運転後に交換

第2回以降は

6ヶ月または、100時間運転ごとに交換

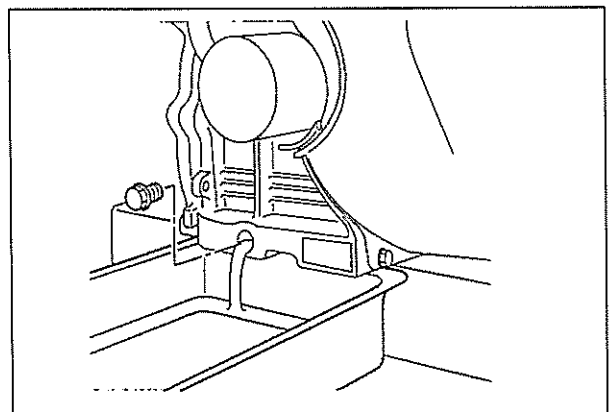
指定エンジンオイル：10W-30

オイル容量：1.55ℓ

- ①オイル交換はエンジンを停止し、暖まっている時ドレンプラグを外して抜きます。オイルゲージを外しておくと早く抜けます。

注意

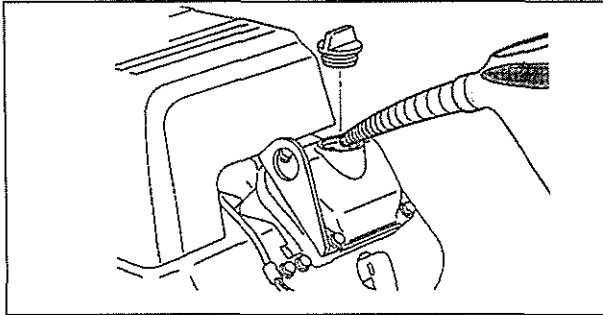
熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。



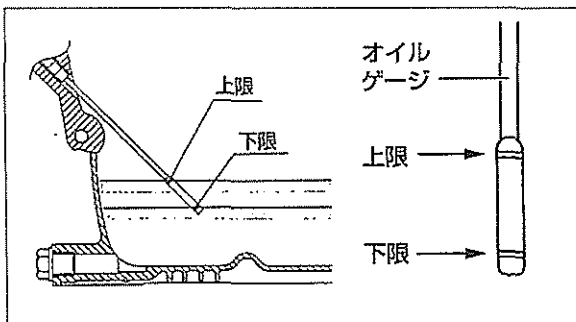
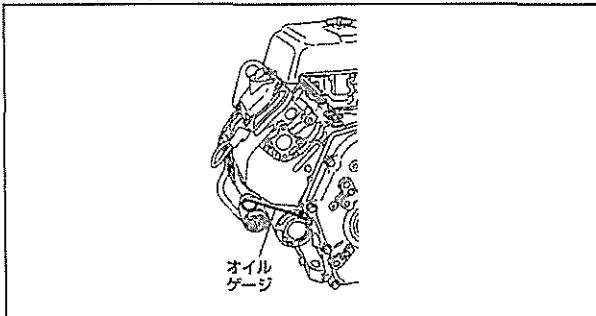
簡単な手入れと処置

②ドレンプラグをきれいに洗い、確実に締付けてください。

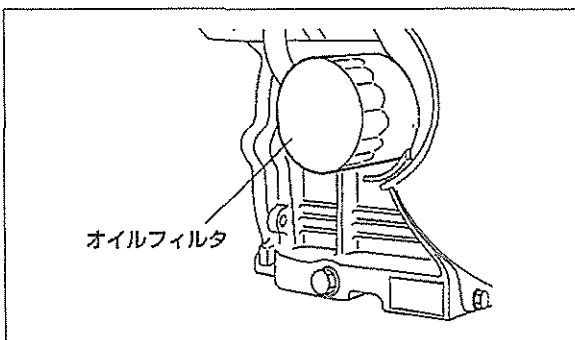
③エンジンオイルを計量してジョッキに入れ、下図のように注油してください。



④オイルが規定量入っているか、確認してください。



4. オイルフィルタの交換



●オイルフィルタの交換
初回は 50 時間使用後に交換。
2 回目以降は 200 時間使用毎に交換。

①取付けの際は、オイルフィルタの O リングにオイルを塗りすべり易くし、シール面の O リングが接触してから手またはレンチで 3/4 回転締め付けてください。

②締付け後軽く運転しオイル漏れの無いことを確認してください。

注意

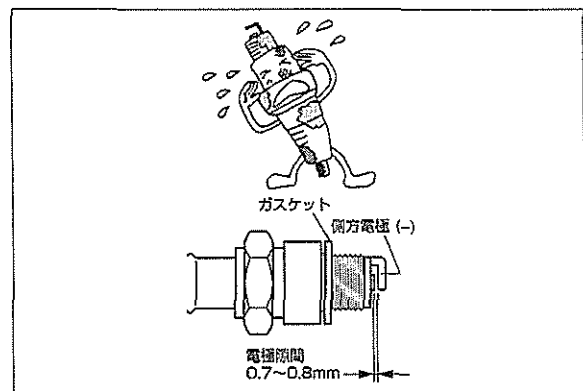
熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。

5. 点火プラグの清掃と調整

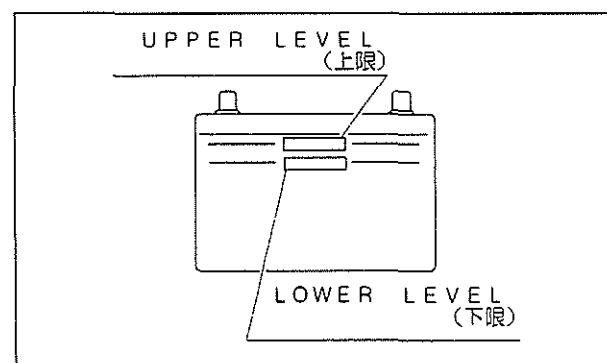
①プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナまたは、ワイヤブラシ等で汚れを落としてください。

②電極隙間の広い場合は側方電極を曲げて、0.7～0.8 mm に調整します。

推奨点火プラグ:BPR5ES(NGK)相当品



6. バッテリーについて



簡単な手入れと処置

バッテリーの電解液中の水は、蒸発して減少します。液面が、LOWER LEVEL と UPPER LEVEL の間にあれば適正です。

少ない時は、蒸留水またはバッテリー補充液を補給してください。

！ 注意

- バッテリーからバッテリーケーブルを外す時は（－）側から外し、取付ける時は（＋）側から行ってください。逆にすると、工具が本機に当たった場合にショートして火花が生じ危険です。
- バッテリーにケーブルを接続するとき（＋）と（－）を間違えないようにしてください。もし間違えるとバッテリーや電装品を破損させます。
- バッテリー液は過不足がないようにしてください。
多いと液があふれて本機を腐食させ、少ないとバッテリーの極板が破損し、寿命が短くなります。
- 冬期間は充電不足にならないように注意してください。
放電ぎみですと電解液が凍り、バッテリー本体を破損させる場合があります。
- 長期間本機を使用しない場合は1～2ヶ月に1度は補充電してください。
定期的に比重を測定し、バッテリーの状態を確認してください。
比重が1.22～1.28であれば正常です。

！ 危険

バッテリーは引火性ガスを発生しますので取扱いを誤ると爆発や大ケガをすることがあります。

（特に保守、点検、充電、ブースターケーブル使用時には危険のないように取扱ってください。）

●火気厳禁

・・・ショートやスパーク、タバコなどの火気を近づけないでください。⇒爆発

●通風のよい所で

・・・閉めきった場所での使用や充電は危険です。⇒爆発

●バッテリー液は希硫酸

・・・皮膚、目、衣服につくと危険です。⇒やけど、失明

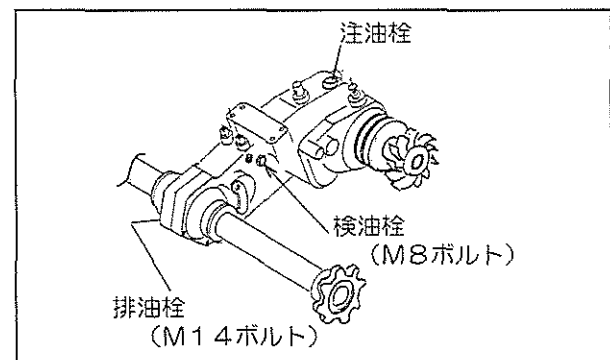
《応急手当》

●皮膚、衣服についた時は、多量の水で洗ってください。

●目についた時は、ただちに多量の水で洗い、医師の治療を受けてください。

7. 走行ミッションのオイル点検

ミッションケースの検油栓までギヤオイルが入っている事を確認してください。不足している場合は、注油口から検油栓の位置まで給油してください。



簡単な手入れと処置

オイル交換時期

●走行ミッションオイル交換

初回 : 50時間

以降 : 500時間毎

指定オイル: ギヤオイル#90

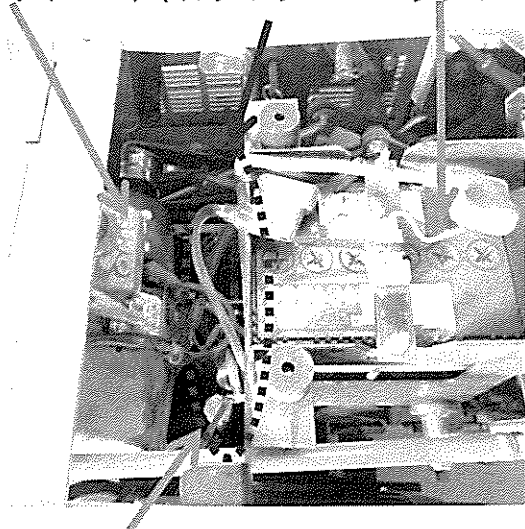
オイル量 : 約3ℓ (検油栓まで)

8. HST用オイル

走行ミッション用HSTのオイルは座席下、バッテリーとエンジンの間の下にあるオイルタンクに入っています。ゲージの上限付近にある事を確認してください。

不足している時は、補給してください。オイルが急激に減少したときは、オイルもれを点検してください。また、給油時は絶対にゴミを入れないよう注意して下さい。

エンジン オイルタンク バッテリー



オイルタンクの給油栓(ゲージ付)

●HSTオイル交換

交換 : 500時間毎又は年1回

指定作動油: 昭和シェル

テラスオイル#68

オイル容量: 約10ℓ (ゲージ管理)

●全量交換する場合は、ISO VG68 耐摩耗性

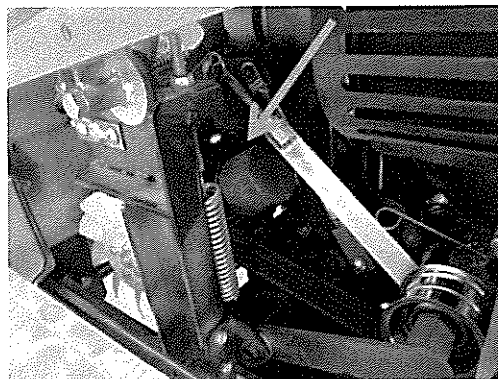
作動油相当品もしくはSAE 10W-30 CD級エンジンオイルでもかまいません。

- HSTオイルに水、泥、グリース等が混入した場合も必ず交換してください。(水分混入許容値は0.1%以下)

9. HSTオイル用フィルター

HSTオイルタンクの出口側についているラインフィルターを指定時間毎に交換してください。

(交換はオイルを抜いてから行ってください。)



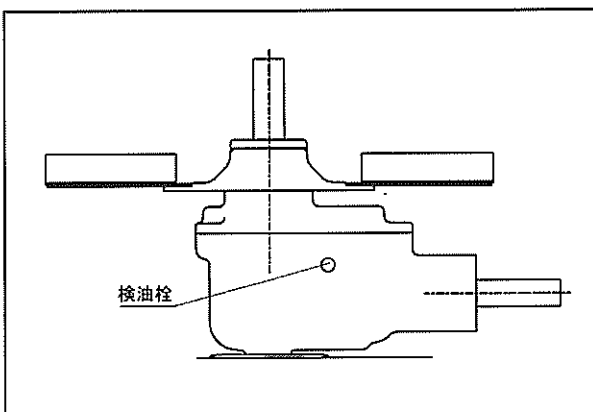
●オイルフィルタ清掃又は交換

交換 : 500時間毎又は年1回
フィルタ

(タカキタコード : 43102 3511 000)

10. 散布ミッションオイルの点検

毎作業前に、検油栓までギヤオイルが入っている事を確認し、不足している場合は検油栓の位置まで給油してください。



簡単な手入れと処置

●オイル交換時期

交換：

1回目：30時間

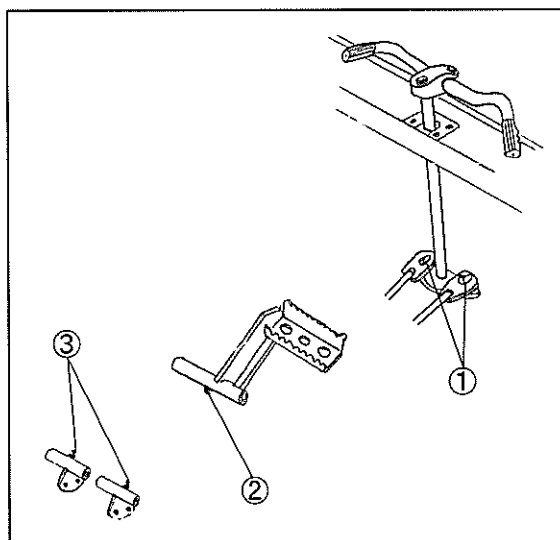
2回目以降：年1回シーズン始め

指定ギヤオイル：#90ギヤオイル

オイル容量：約1.0ℓ

1 1. 各部のグリスアップ

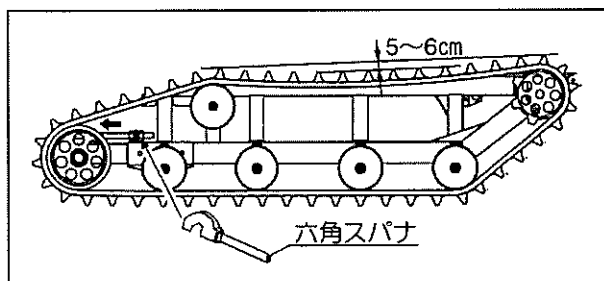
- ①ハンドル支点
- ②走行クラッチペダル支点ピン
- ③ハンドルリンク支点ピン



※ その他、上図以外の摺動部にも適宜注油してください。

1 2. クローラ張力の調整

クローラ張力は下図を参考に、付属の六角スパナで調整してください。特に新車時は初期伸びが大きいので必ず確認調整をしてください。



1 3. ハンドルの調整

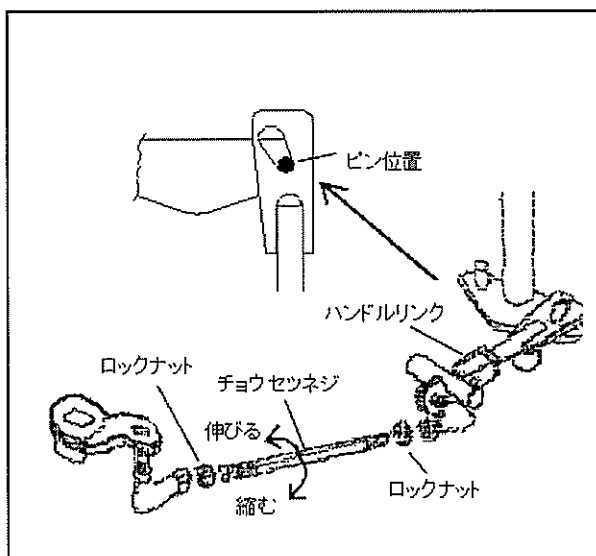
ハンドルを回し、旋回するか、確認して

ください。

また、ハンドルが中心にある時、直進するか確認してください。

ハンドルを回した時、引いた側のクローラが完全に停止しない場合や、ハンドルが中心にあっても直進しない場合は、調整してください。

- ①ハンドルが中心にある時、ハンドル軸のピンがハンドルリンク長穴の下端に軽く当たるように調整ネジを調整してください。(左右とも同時に調整)



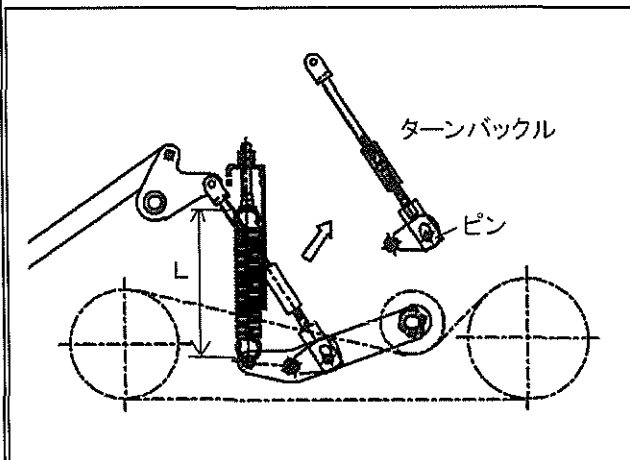
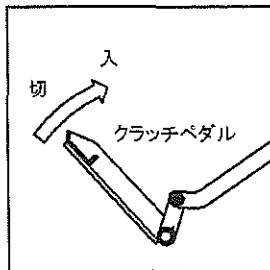
1 4. 走行クラッチペダルの調整

走行中Vベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。

- ①クラッチペダルを入にしてください
- ②下図のスプリングの内寸法Lが155mmになるように調整ネジで調整してください。
- ③クラッチペダルを入にした位置でピンが長穴の後部にあるようにターンバックルで調整してください。
- ④クラッチを「切」にした時、クラッチが完全に切れ、走行ミッションのプーリーの回転が停止することを確認してください。

簡単な手入れと処置

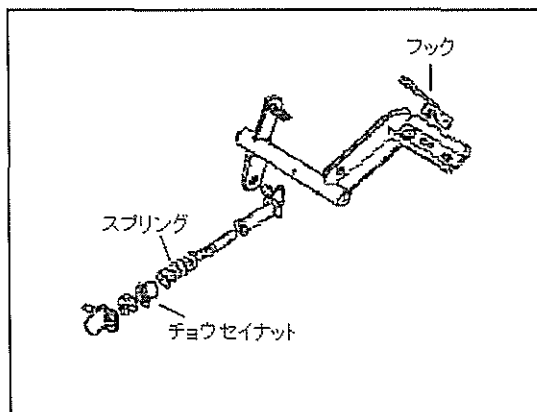
切れない場合はベルト押えで調整してください。



15. 駐車ブレーキペダルの調整

ブレーキパッドが磨耗した時は調整してください。

- ①ブレーキペダルをフックで固定します。
- ②スプリングの内寸法が75mmになるようにロットの長さを調整してください。



16. 作業クラッチの調整

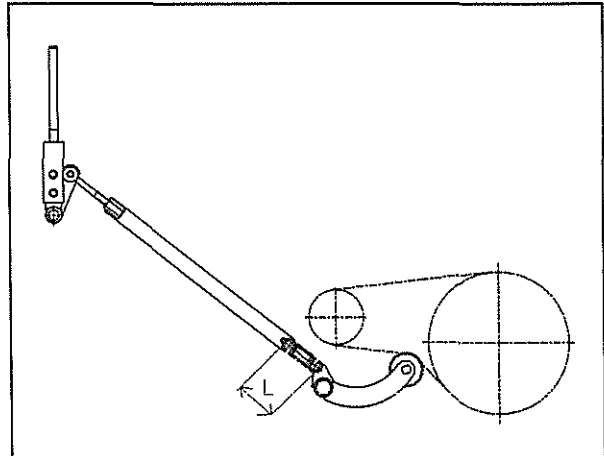
散布作業中Vベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。

- ①作業クラッチを「入」にします。

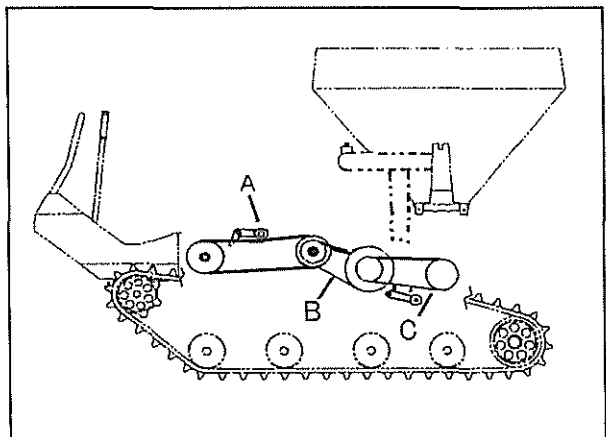
- ②スプリングの内寸法が75mmになるようにネジで調整してください。

- ③クラッチを「切」にしたとき、クラッチが完全に切れ、スピナーが停止することを確認してください。

切れない場合はベルト押えで調整してください。



17. 各部のベルトの張り調整



	ベルトサイズ	本数	調整方法
A	LB-41 (スーパーゴールド)	2	スプリングで引張り ます。ベルトの中央 部を指で押し(約3 kg)10~15mmのた るみとなるようにし てください。
B	LC-43 (スーパーゴールド)	1	テンションクラッチ となっております。 作業クラッチを「入 」にした時つながり、 「切」にした時クラ ッチが切れるよう、 前項の作業クラッチ の調整を参考に調整 してください。
C	LB-56 (スーパーゴールド)	2	

簡単な手入れと処置

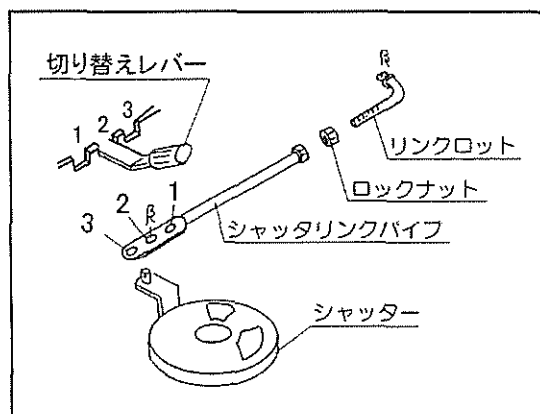
Vベルトの調整は次表に従い、行ってください。Vベルトに損傷がある場合は、早めに交換してください。また、B及びCのVベルトは2本同時に交換してください。

18. 散布方向の調整

肥料の種類や比重の違いにより、散布方向が、右あるいは左に片寄りすることがあります。

本機はこれらに対応するため、繰出し穴位置を変えることが出来ます。

出荷時は「2」の位置にセットしてあります。



◆ 調整方法

- ・例えば、標準出荷状態で肥料が「右側」に片寄って散布される場合は、「1」の位置に切り替えレバー及びシャッターリンクパイプをセットします。

- ①シャッターリンクパイプの「1」の穴にシャッターピンを入れます。
- ②切り替えレバーを「1」の位置にセットします。
- ③シャッターレバーの開度を0から10まで動かし「全閉」、「全開」となるか、確認してください。
- ④「全閉」、「全開」とならない時は、リンクロッドの長さを調整してください。

- ・逆に、標準出荷状態で肥料が「左側」に片寄って散布される場合は、「3」にセットしてください。

◆ 各穴位置と肥料の種類

穴位置	対応する肥料・土改剤
1	粒状肥料・土改剤
2	粒状肥料・砂状肥料・土改剤
3	砂状肥料・土改剤

注意

上記の関係はおよその傾向を示すものであり、散布する肥料・土改剤の性質あるいはエンジン回転数によって変化します。作業開始時にはその散布状態をよく確認してください。

19. 肥料・土改剤について

肥料・土改剤は湿気が少なく、均一でかたまりや、異物の混入していないものをご使用ください。

注意

- 湿った肥料・土改剤はホッパー内でブリッジ現象や、つまりを起こしやすくなります。
- ビニール片などの異物が混入すると、アジテータにからみ付き、不均一散布の原因となります。

20. 日常の管理について

- シャッター部に水分が付着していると、肥料・土改剤の繰出しが悪くなります。水分や付着物を乾いた布で拭き取ってから使用してください。
- スピナーに肥料・土改剤が付着していると散布性能が変化します。いつも、きれいにしておいてください。
- 使用後は、ホッパー内に肥料・土改剤を残したまま放置しないでください。肥料・土改剤が固まって故障の原因となります。
- 作業終了後は、常に掃除をするように心掛けてください。

簡単な手入れと処置

⚠ 警告

残った肥料・土改剤の取出しや掃除をする時は、作業クラッチを切り、エンジンを完全に停止させてから行ってください。

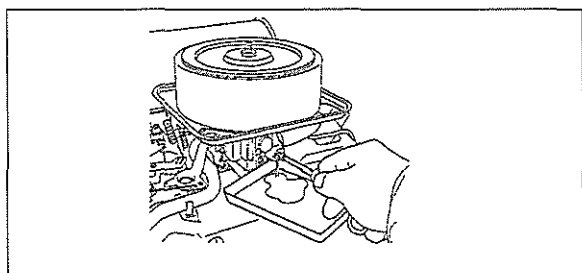
2.1. 長期格納時の手入れ

長期にわたって、ご使用にならない時は次のことを行い本機を保管してください。

- 水洗いをし、付着した肥料・土改剤や埃などを落とし、異物を取除いてください。
☆ 苛性カリを含んだ肥料・土改剤を散布した後は、特に念入りに水洗いを行ってください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部には充分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料等を塗って錆びが出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- 1ヶ月以上、エンジンを使用しない場合は、燃料の変質による始動不良、または運転不調による始動不良、または運転不調にならないように燃料を抜き、湿気の少ないところに保管してください。キャブレーター内の燃料はフロート室のドレンスクリューをゆるめて抜いてください。

⚠ 危険

火気厳禁



また、燃料パイプ等に残ったガソリンはエンジンを始動し使い切ってください。

- バッテリーはできるだけ機体から取外して充電したうえで、日光の当たらない乾燥したところに保管してください。やむを得ず、本機に取付けたまま保管するときは必ず、アース側（マイナス側）を外してください。
- 給油箇所には注油あるいはグリスアップをしてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は、平坦な所で保管してください。

2.2. 使用済廃棄物の処分について

機械の廃油等廃棄物をむやみに捨てる
と環境汚染になります。機械から廃油を
抜く場合は、容器に受けてください。地
面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対
にしないでください。廃油・燃料・フィ
ルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる
ときには、販売店、又は産業廃棄物処理
業者に依頼してください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●散布跡に濃淡がある	●散布幅に対し、重複散布をしていない	●有効散布幅に対し適切な重複散布幅を設ける	2 1
●散布方向が片寄る	●散布中心と走行中心が一致しない	●ホッパー底板の肥料落下口位置の調整	3 0
●散布量が安定しない	●アジテータ・シャッター開口部に異物が絡まっている ●ホッパー内で湿った肥料・土改剤が詰まっている	●エンジンを止めて異物の除去 ●乾燥した肥料・土改剤に入れ替える	3 0 3 0
●散布量が少ない	●上記項に同じ ●シャッターの開口穴より、肥料・土改剤の粒径の方が大きい (少量散布の時) ●ベルトがスリップする	●上記項に同じ ●シャッター開度を十分、大きくして作業速度を速くする ●ベルトの張りを調整する	1 9 2 9
●ケイ糞が散布できない	●ブリッジ現象、もしくは、肥料・土改剤の落下口の詰まり	●別売品の専用アジテータに交換	2 1
●散布幅が狭い	●スピナーファンもしくは、スピナーが摩耗している ●エンジン回転速度が出ていない ●ベルトがスリップする	●新しい部品と交換 ●エンジン回転速度を $3200\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ まで上げる ●ベルトの張りを調整する	— — 2 9
●スタータが回転しない	●バッテリーが放電している ●バッテリー端子部のゆるみ、外れまたは腐食している ●キースイッチの不良 ●リード線、コネクタが外れている	●バッテリーを満充電する ●端子部を清掃し、確実に締付けてグリスを塗布し、防錆する ●交換する ●コネクタ、リード線を点検する	2 5 2 5 — —

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペー ジ
●スタータは回るがエンジンが始動しない	●燃料タンクにガソリンが入っていない ●燃料コックが「閉」になっている ●燃料に水などの不純物が混入している ●点火プラグが悪くなっている	●ガソリンを補給する ●燃料コックを「開」にする ●水抜きまたは新しい燃料にする ●点火プラグを外し、火であぶるか、乾いた布などでよく乾燥させる ●点火プラグのすき間を調整する	(エンジンの取説)
●エンジンの定格出力が出ない	●エアクリーナが目詰まり ●チョークが戻っていない	●エレメントを清掃する ●チョークを戻す	(エンジンの取説)
●走行しない	●ベルトが切れている ●走行クラッチペダルの遊びがない ●ベルトがスリップする	●ベルトを交換する ●クラッチペダルの調整をする ●ベルトの張りを調整する	2 9 2 8 2 9
●ハンドルの効きが悪くなった (旋回しにくくなった)	●ハンドルリンクの遊びが大きすぎる ●クラッチ板が摩耗している	●あそびの調整をする ●交換する	2 8 —

付 表

1. 主要諸元

品		名	グラントエース	
型		式	SS5020	
機 体 寸 法	全	長	2270mm	
	全	幅	1575mm	
	全	高	1970mm	
質		量	660kg	
散布部	ホ ッ パ ー 容 量		500ℓ	
	最 大 積 載 重 量		600kg	
	散 布 方 式		スピナー式	
	スピナー回転速度		590min ⁻¹ (590rpm)	
	アジテータ回転速度		53min ⁻¹ (53rpm)	
クローラ	ク ロ ー ラ 幅		40cm	
	中 心 距 離		118cm	
	接 地 長		135.5cm	
接 地 圧	空 車 時		6.3kPa (0.06kg/cm ²)	
	積 載 時		11.7kPa (0.12kg/cm ²)	
旋 回 方 式			湿式多板ブレーキ方式	
速 度	低 速	F	3.8km/h	
		R	2.1km/h	
	高 速	F	7.0km/h	
		R	4.0km/h	
エ ン ジ ン			ガソリンエンジン 最大13.4kW (18ps)	
散 布 幅			砂状 6～7m	粒状 10～12m

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 配線図



- 35 -

付 表

4. 定期点検と調整一覧表

項 目		時 間	毎 作 業 前	アワーメータ表示時間 (H)										参 照 ページ
				20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	
エ ン ジ ン 部	エンジンオイルの点検・補給	●												24
	エンジンオイルの交換		●		●		●		●		●		●	24
	点火プラグの清掃				●		●		●		●		●	エンジン 取説
	エアクリーナエレメントの清掃	●												24
	エアクリーナエレメント交換			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	24
	燃料フィルタの清掃				●		●		●		●		●	エンジン 取説
	点火プラグすき間の清掃						●				●			エンジン 取説
走 行 ・ 操 作 部	クローラ張力		●	●		●		●		●		●		28
	走行ミッションオイル交換			●	●		●		●		●		●	26
	ハンドルの点検	●												28
	走行クラッチペダル点検	●												28
	駐車ブレーキペダル点検	●												29
	走行駆動Vベルト点検		●		●		●		●		●		●	29
	支点部グリスアップ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	28
	ハーネス、バッテリーコード 点検		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—
散 布 部	散布ミッションオイル点検	●												27
	散布ミッションオイル交換		●		●		●		●		●		●	27
	散布ミッション駆動Vベルト 点検		●		●		●		●		●		●	29
	スピナーカバーの摩耗	●												—
	スピナーの摩耗	●												—

5. 使用オイル一覧表

使 用 場 所	オイルの種類	量	備 考
走行ミッションケース	ギヤオイル #90	3.00	
油圧タンク	テラスオイル#68	1.00	
散布ミッション	ギヤオイル #90	1.00	
エンジンオイル	10W-30	1.550	